（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 7年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立三郷工業技術高等学校 ）

目 指 す 学 校 像	「ものづくりの精神」に基づき、豊かな人間性を育成するとともに、学力向上をとおして、生徒の自信を高め、地域に貢献できる技術者を育成する」

重　点　目　標	1　基礎学力や専門知識・技術の習得を重視し、学習指導を充実させる 2　生徒指導及び進路指導の充実を図り、社会人基礎力を身につけさせる 3　開かれた学校づくりに取り組み、工業高校の魅力を積極的に発信する

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 （　月　日　現 在 ）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 新学習指導要領に基づいた授業実践が進み、生徒の授業への積極的な参加が見られる。全学年一人一台端末が整備され、活用も進んでいる。 【課題】 基礎学力不足の生徒が多く、学習習慣の定着と基礎学力向上、専門知識・技術の確実な習得を行い、生徒の自信を高める。ICT 活用の授業方法の模索と教員間の情報共有を強化する。	①ICT 活用による授業改善と指導力向上により、生徒の学力向上と学習意欲の向上。	①生徒の主体的な学びを促進するICTを活用した授業や基礎学力向上のための効果的な学習方法を導入する。	①教科・学科の横断的な学びを実施することで生徒の学力向上が見られ、同時に生徒の授業への積極参加が見られたか。 ②一人一台端末の積極活用がされたか。				
			②専門学科指導の追求と課題研究の充実。	①工業科の授業で「授業内容が身に付いた」という生徒の割合が各学科 80%以上。 ②課題研究の生徒満足度 90%以上。				
		②資格取得や、各種コンテスト、大会への促進。	①配信メールの活用を含め、積極的な情報提供。	①資格取得やコンテストなどに取り組む生徒が多くいたか。				
			②資格取得の指導や各種コンテストや大会の情報提供。	①アンケートにおいて、資格指導が充実しているとの回答が 80%以上。				
2	【現状】 生徒規範は概ね守られており、大きな問題行動は減少傾向にある。進路指導は充実しており、生徒の進路実現に向けた取り組みが進んでいる。 【課題】 社会人基礎力、特に自己管理能力の更なる向上を目指し、組織的な生徒指導と進路指導を強化する。生徒の主体的な学びを促進し、変化に適応できる人材育成を強化する。	①社会人基礎力の育成を目指した生徒指導の推進。	①生徒の「セルフマネジメント能力」を高める生徒指導の推進。	①基本的生活習慣の確立、特に遅刻者数が減少したか。 ②手帳を用いた自己管理の習慣化が高まったか。				
			②社会人としての基礎的な知識・技能を習得するための指導。	①交通安全指導の実施し、ヘルメットの着用を呼びかける。 ②基礎力診断テストを実施し、基礎学力が向上したか。				
		②生徒の進路実現に向けた指導と主体的な学びを促進する教育活動の推進。	①大学コース、専門コースにおいて、特性を生かした指導を行う。	①コース選択の満足度が高い値を示したか。 ②就職や進学に対する情報提供を充実して行えたか。				
			②三年間を見通したキャリア教育の実施。	①生徒自らの力で人生を考えることができるキャリア教育が行われたか。 ②進路行事の充実とインターンシップの積極参加が行われたか。				
3	【現状】 本校の魅力を十分に発信できていない状況であり、募集定員を満たしていない学科が多い。 【課題】 本校の特色・魅力・成果を効果的に情報発信し、志願者増加につなげる。積極的な外部連携を通して、開かれた学校づくりを推進し、地域との繋がりを強化する。	①学校の魅力発信と生徒募集の強化。	①本校の特色・魅力・成果について積極的に情報発信し、生徒募集につなげる。	①情報発信の機会を多く設ける。 ②生徒募集において、各科志願倍率 1.0 倍を確保する。				
			②各種説明会や学校見学会、出前授業、体験入学等をとおしたＰＲ活動の実施。	①地元小中学校との連携回数の増加 ②本校で行う各種広報行事における参加者数増加。				
		②企業や地域、小中学校、各種機関等との連携強化。	①コンソーシアムを設置し、地域の産学官と持続的な連携体制を構築する。	①コンソーシアムを設置できたか。				
			②外部連携を積極的に行い、開かれた学校づくりを行う。	①外部連携による活動やイベントの実施状況は増加したか。				